

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401798		
法人名	株式会社 日総		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム とみおか		
所在地	札幌市手稲区富丘2条4丁目11-15		
自己評価作成日	平成23年9月28日	評価結果市町村受理日	平成23年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が寄り添うケアを目標にしながら、なおかつケアの質を高めるため研修や勉強会などに取り組んでいる。  
地域との交流も徐々に深まりつつあり、敷地内の畑の草刈りや、入居者様との交流を深めるためレクリエーションを交えながらの交流会も開いています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401798&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401798&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年10月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホーム とみおか」は、バスやJRなど交通機関も充実した静かな住宅地に位置している。共有空間や居室はバリアフリーで、各居室からの導線を考慮した広いトイレやクッション性のある床暖房対策など設備面も充実している。開設時より取り組んできた町内会との交流も今年度から活発に行われ、定期的な婦人部のボランティアによる散歩の同行やゲーム、食事の配膳などが行われている。また、新たに町内会に社会福祉部が発足し、運営推進会議や避難訓練などに役員が参加して数々の意見や提案が寄せられ、日々の運営に役立てられている。定期的に開催されている運営推進会議への家族参加も多く、法人アンケートと共に家族の意見に常に耳を傾けて真摯に受け止め、日々のケアや運営に反映させている。毎月全員のモニタリングを行い、個々の利用者の現状を常に把握して寄り添い、本人の意向に沿ったケアができるように全職員で取り組んでいる。年間を通じた外出レクや行事、散歩や外気浴などを積極的に取り入れたり、利用者の希望に応じた入浴態勢と共に温泉へ出かけるなど入浴への楽しみが持てるような配慮も行っている。管理者を中心として職員間のコミュニケーションも良く、温かなケアが日々行われ、各利用者も穏やかな笑顔で過ごしているグループホームである。

サービスの成果に関する項目(1F せせらぎ アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F せせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内や事業所の見える場所に理念を掲示し、職員間で共有を図りながら努めるよう心がけております。	地域密着型サービスの意義を踏まえた「地域社会の中で人と人とのふれあいを大切にします」という事業所独自の基本理念を全職員で作成し、玄関や居間、スタッフルームなどに掲示している。スタッフ会議や日々のケアの中で各職員は理念を再確認し、実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の総会や活動にも参加させていただき、ホーム敷地内にある畑の草刈りをお手伝いいただいております。畑仕事の際には近隣の方々と気軽に声を掛け合いながら交流を深めている。	日々の散歩で幼稚園児や保育園児と会話を交わしたり、高等養護学校の生徒が雇用促進授業で来訪するなどの交流が行われている。事業所のお祭りに多くの近隣住民が参加したり、町内会婦人部による定期的なボランティアの訪問や近隣からお花をもらうなど、活発に地域交流が行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年6回の運営推進会議の実施により、情報の発信を行なっている。地域の方々にホームでの行事や交流会などで、実際に関わりを持ちながら親睦を深めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催し、利用者様のサービス状況報告などを行い、随時質問、意見交換しながらサービスの向上に反映している。	地域包括支援センター職員、町内会役員、家族などが参加して2ヶ月毎に開催している。災害対策や外部評価結果報告の他、活動報告や認知症に関する研修報告など、参加者に役立つ情報の提供が行われている。避難場所など災害対策に関して情報が寄せられ、日々のケアに活かされている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市、区の管理者会議に参加、互いに情報に情報交換を行いながら、より良いサービスが行えるよう取り組んでいる。	生活保護課の職員と生活保護の利用者の金銭面について相談したり、利用者に関連する日常的事などは管理者が役所の担当者と連絡を取り、問題や疑問を解決している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関ドアも施錠せずに自由に入出入りできるようにしている。内部研修やマニュアルで再確認しながら学んでいる。	「身体拘束等行動制限について取扱い要領」を作成し、内部研修を行ったり、カンファレンス時に具体的な事例検討会を行っている。玄関ドアは夜間のみ施錠を行い、日中は職員間の見守りで安全面に配慮している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で、職員同士情報や意見の交換をしながら、日々の援助に努めている。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F せせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に権利擁護制度を利用されている方がいないため、必要性について学ぶ機会がないのが現状である。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、事前に見学を兼ねて相談に応じながら、十分な説明をさせていただき、合意の上契約をしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱の設置、毎年アンケート調査も実施している。日頃より利用者様・ご家族の意見に耳を傾けながら、運営に反映させるよう努めています。	法人本部によるアンケートが年1回実施され、集計結果に応じて職員間で話し合いを行い、日々のケアに活かしている。家族の来訪時には積極的に話しかけ、個別に「ご家族様連絡表」を作成して全職員で情報を共有し、統一した対応ができるように配慮している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個別面談を実施。問題に直面した際は、その都度情報の収集、意見交換を行っている。また日々のフロア会議や全体会議の場でも意見交換を行いながら反映している。	管理者は各職員と年2回個別面談を行い、振り返りと共に意見や提案を聞く機会を設けている。行事担当や食材担当など職員が各担当を交代で行い、意見や提案が反映できるように配慮している。日々のケアの中でも職員が意見を積極的に提案できる環境が整えられている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別の面談や目標設定を行い、意見の交換や振り返りを行うことにより、各自が向上心を持てるような環境作りに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修を通じて、他の職員との交流や意見交換ができる機会を設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や見学など、互いに交流しながら学べる環境のできる機会を多くもちながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F せせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前に本人の不安や要望などの声に耳を傾け、職員間で把握したうえで、安心してお過ごしいただけるような関係作りに努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>書面の情報だけではなく、御家族様としての、願いや意見を汲み取り、話し合いながら信頼づくりができるように心掛けています。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人にとって必要なサービスがあれば、相談に応じ、見極めながら受け入れられる支援の対応をおこなっている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人の思いや変化に気づき、寄り添いながら解決していけるよう日々心掛けています。また、お互いに笑いあいながら、穏やかにお過ごしいただけるよう努めています。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>訪問時や、毎月のおたよりなどで、日常生活の様子を伝える以外にも、ホームの行事への参加を促し、ご本人と共に過ごしいただく時間ももち、本人を支えていく関係作りを築いている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご本人が可能な限り、はがきを書いたり、電話でお話していただいたり、馴染みの知人に来訪していただけるよう努めています。</p>	<p>学生時代の友人や宗教関係の知人が来訪したり、お中元、誕生日プレゼントをもらうなどの交流をしている利用者もあり、希望に応じて電話をかけたたり手紙と一緒に書くなどの支援を行っている。家族や職員と馴染みのお店に出かけて会話を交わしたり、買い物を楽しめるように支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>個々の性格や趣味、互いの関係性を把握しながら、共通して楽しんでいただけるような行事や話題などを支援できるよう配慮しています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F せせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、ご本人、御家族様に対して入居時と変わらず、相談に応じている。その後のご本人様の様子など連絡して下さるご家族もおります。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で、ご本人の希望や、思いを汲み取れるよう心掛け、また、御家族様の協力を得ながらお互いに向き合えるよう努めている。	利用者との普段の会話から好みや意向を把握して、申し送りノートに記載している。入浴時や居室などで個別的に話せる時間を大切にして、本人の思いや意向の把握に努めている。	各職員が把握した思いや意向を個別に記録して情報を蓄積し、介護計画や日々のケアに更に活かされるように期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やライフスタイルなどご本人、御家族様からいただいた情報を、職員間で共有し個々に適したサービスが提供できるよう努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や日々の申し送りなどで、現状の把握・対応を職員間で共有し、心身の状態や変化にその都度対応できるよう努めています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様と職員からの利用者様の情報の収集により、「そのひとらしさ」が活かせるチームケアに取り組んでいる。	新規利用者の介護計画は1ヶ月以内で見直しを行っている。定期的な見直しは、毎月のモニタリングを基に家族と本人の意向を聞きながら3ヶ月毎に行い、作成した介護計画は本人と家族に説明して確認を得ている。本人の状況に応じて随時追加や見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	御本人に関する、気づきや変化など職員間で周知したい内容には、介護記録に色分けをし、見逃しのないよう注意している。繰り返し申し送りや、カンファレンスにて確認、検討するよう努めています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、御家族様と相談しながら、可能な限りご本人、の希望されるサービスに対応できるよう心掛けております。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、近隣の住民、地域ボランティア、地域包括支援センターからの協力を受けながら支援に努めています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関体制の他、個々に必要な通院にも対応している。ご本人、御家族様の意見も取り入れ、かかりつけ医に往診している利用者もおられる。	かかりつけ医の継続は可能であり、家族が同行する時は経過記録を持参してもらい、適切な医療が受けられるように支援している。受診結果は個別に受診ノートに記録して情報を把握している。協力医療機関による往診も定期的に行われている。	

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F せせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関により、日常の健康管理や医療活用 の支援を行っている。特変時には24時間体制で主治医と連絡をとりながら対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、御家族様と情報を共有しながら随時連絡をとり、退院後の対応が速やかに行えるよう心掛けています。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族様・主治医と方針や意向について協議していき、共に考えながら説明させていただきます。	「入居様が重度化した場合の対応に係る指針」を作成し、利用開始時に説明を行っている。常時療行為が必要になった場合や経口摂取ができなくなった場合は適切な施設を紹介する旨も説明し、了解を得ている。体調変化に応じてその都度対応について相談を行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習会の参加や内部研修、マニュアルに沿っての周知などは行っている反面、定期的に訓練を行っていない。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々の協力体制は運営推進会議を通じて話し合われているが、全職員が利用者の安全確保のための方法を身につけてはいない。	消防署の協力の下、年間2回昼夜の火災を想定し、町内会役員の参加を得て避難訓練が行われている。現在プロジェクトチームを立ち上げ、地震マニュアルの作成を行っている。災害備蓄品のリストを作成して、定期的に点検と整備が行われている。	地震マニュアルの作成と共に火災以外の避難訓練の実施と、災害時の地域住民の役割分担について話し合われるように期待したい。各職員の定期的な救急救命訓練の受講を期待したい。
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けには、その方のプライバシーや尊厳を損なわぬよう対応し、介護者が自分を利用者の立場に置き換え考えながら支援している。	対応には敬意を払い、利用者の気持ちに沿って話題を選び、名前は苗字に「さん」付けとしている。個人情報などの書類はスタッフルームに保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々利用者様と関わりを持ちながら、本人の声を傾聴し、思いに気づけるよう話しやすい環境作りに努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の残存能力に配慮し、本人のペースを崩さず、過ごしていただけるよう支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣時には、職員と共に気候や外出などに応じて、ご本人に決めていただきながら、その人らしいおしゃれができるよう支援いたします。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F せせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に、調理の補助、後片付けなど個々にあった作業をお願いしながら協力いただいている。	栄養を管理した献立の他に、ランチ会、行事食、手作り弁当などを取り入れ、また畑の新鮮な野菜類を添えて食事が楽しめるように工夫している。利用者の能力を引き出して魚をさばく、野菜の皮をむくなどの下拵えを手伝ってもらい、盛り付け、配膳、下膳、食器洗いなどを職員と一緒にしている。職員は利用者に合わせて雰囲気作りで食事を共にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養のバランスを考慮し管理栄養士が作成している。食事量、水分量は日誌、水分表により管理しており、変化に応じて対応できるよう努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、介助を行っており、義歯の洗浄も就寝後におこなっている。また、週1回訪問歯科の診療があり、個々の口腔ケアや症状にあった処置を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄が時間ごと様子がわかるよう表に記入している。状態に合わせて声掛け、誘導を行っている。	排泄記録から全員のパターンを把握し、プライバシーに配慮しながらトイレで排泄を行っている。失禁による衛生面や不快さに留意し、時間誘導をこまめにしてオムツやパットから布下着に移行するなどの取り組みもある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握を1日2回行いながら、不足している利用者様には、好みの飲み物を提供したり、ゼリーなどで対応している。利用者様により、医師の指示のもと下剤調整を行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表により、均等に入浴していただき、拒否や体調により、状況に応じて対応している。また、外出の前日など本人の希望などから、臨機応変に対応する場合もある。	いつでも入れる態勢で、午後からの入浴としているが、利用者の希望や状態によっては午前に入ることもある。また入浴を嫌がる時は曜日をずらしたりして柔軟に対応している。時には個人や全員で近くの温泉で入浴を楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の体調を考えながら、ご本人の負担にならない程度の活動を提供し、生活のリズムを整えるような支援ができるよう努めます。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報として随時閲覧できるようファイリングしてある。薬内容の変更がある際には、申し送りで職員間で周知する。薬の目的や副作用については、カンファレンスで改めて再確認として情報を共有している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにとって、できること、できないことを見極めできることをお願いしながら、日々の感謝の気持ちを伝えることにより、張り合いや喜び、達成感を味わえるような機会を作るよう心がけています。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F せせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>本人の希望や体調に考慮しながら、散歩・買い物・外出レクなどの支援を行っている。また、ご家族様の協力を頂きながら、なじみの美容室での整容やお墓参りなど個別の支援にも対応している。</p>	<p>暖かい時期には毎日のように事業所の周囲や公園を散歩し、玄関前のベンチやベランダで日光浴を楽しんでいる。外出行事、日帰り温泉、外出などに出かけ、家族の協力も得ながら個別の外出も行っている。冬場は雪と遊ぶレクや受診などで外気に触れている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的に利用者様に金銭管理はお願いしていませんが、ご本人・ご家族様から要望があった際には預かり証に記載し、ご本人に管理して頂くようお願いしています。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご本人の意向を尊重し、ご家族様とも相談していきながら、電話や、年賀状、贈答品の対応などの支援につなげている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室に窓があるため、廊下や居間などが暗い雰囲気にならないよう、カーテンや間接照明などで調節している。部屋全体の様子を見渡せる造りになっており、調理や掃除音など生活感を感じられるよう努めています。</p>	<p>食卓テーブルとソファの場所を分けてある居間は広く、対面キッチンから全体を見渡すことができる。塗り絵、貼り絵などの作品や行事の写真を利用者と一緒に飾り、利用者を主体にした装飾で季節感も取り入れている。各居室からの導線を考慮した4ヶ所のトイレは、車椅子で容易に方向転換ができるほどの広さである。クッション性のある床暖房対応で、温湿度も調整し快適な空間となっている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有スペースには季節感を感じさせる利用者様の作品を展示、昔を懐かしむ居心地の良い空間作りにも努め、各行事ごとの写真を展示しながら楽しんで頂く環境作りをおこなっている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご家族様に協力頂きながら、ご本人にとって馴染みの物や家具などを持ち込んでいただき、居心地よく過ごせるような工夫に努めています。</p>	<p>居室にはクローゼットが取り付けられてあり、馴染みの家具類や小物、鏡台、仏壇などが持ち込まれている。野球選手の写真や家族の写真を壁に貼り、趣味の編み物で作った作品類などを飾り、居心地のよい個性的な居室作りになっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>移動時、歩行の妨げとならないよう家具の配置や、福祉用具の設置場所にも配慮しながら、一人ひとりの残存能力を活かして、安全に尚且つ自立した生活を送っていただけるよう努めています。</p>		



### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401798		
法人名	株式会社 日総		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム とみおか		
所在地	札幌市手稲区富丘2条4丁目11-15		
自己評価作成日	平成23年9月28日	評価結果市町村受理日	平成23年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1F せせらぎユニット」に同じ
------------------

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401798&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401798&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年10月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(2F そよかぜ アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F そよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所の見やすい場所に掲示しており職員は、理念の意義を確認して業務にあたっている		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会総会、新年会等行事に参加している。ボランティアとの交流や、婦人部の方がレク参加して日常的に交流している		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、町内会の集まり等で認知症の話しをしたりホームの行事、レクに参加して頂き認知症に対する理解につなげている		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、報告、話し合い、議事録を送付しサービスの向上に活かしている		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包活、保護課、福祉課等電話連絡が多いが協力関係を築くよう取り組んでいる		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス、申し送り時等で話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス、申し送り時等で話し合い虐待防止に努めている		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F そよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度を利用している入居者がおり、必要性を話し合い活用できるよう努めている</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に出来るだけ十分な説明を行ない、不安疑問は速やかに対応するよう努めている</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱設置し、御家族様にアンケートを送ったり来訪時意見要望を聞く機会を作り運営に反映させている</p>		
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体会議、フロア会議、数回の個人面談で職員の意見や提案聞く機会を設けている</p>		
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個別面談、申し送り、業務終了後等に意見交換を行い職場環境の整備に努めている</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の研修計画を立て内外部研修に参加する機会を設けている</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会、同じ区の集まり等に参加しサービスの質を向上させていくよう努めている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F そよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人が困っている事不安要望等傾聴し信頼関係を築き安心を確保するよう努めている</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>事前に家族の困っている事不安要望等を話し合いながら関係づくりに努めている</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要としている支援を見極め対応するよう努めている</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>人生の先輩として尊重し共に支えあう関係を築くよう努めている</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>来訪時、お便り等で近況報告し、ホームの催しに参加して頂ける工夫をしている</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族の協力を得ながら外食以前住んでいた家、美容室等に行き、居室には、馴染みの写真飾り等置いている</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係を把握し共通して楽しめるレク、話題作りを支援し良好な関係が保てるよう努めている</p>		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F そよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方を見舞いをし、家族に電話で近況をお聞きし相談支援に努めている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向の把握ができるよう勤めている。またカンファレンス時、担当者中心に話し合い情報を共有している		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族にセンター方式記入して頂き、ご本人にたずね、これまでの生活歴等把握に努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとり担当の職員がおり心身の把握に努めると共に他職員と情報交換し共有するよう努めている		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング等で、課題を見つけて介護計画に反映させている		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、記録の重要性を認識しており申し送り、連絡ノート等で情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズにより、買い物、外出、病院受診等柔軟な支援サービスに取り組んでいる		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力を得たり運営推進会議の構成員である町内会等の方の協力を受けて支援に努めている		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関体制で個々の要望に応じた支援を行なっている		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F そよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の協力機関による訪問診療、歯科の他、特変事医師や看護師に相談対応も受けている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供書を病院に送り安心して治療ができるよう勤め、入院中も医療機関や家族との連携を多くもって早期退院に向けて心掛けている		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時重度化に伴う対応方針を文書で説明し署名を得ている。事業所での生活が困難な場合、家族、本人、医師とその都度話し合い対応している		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応に関して会議、申し送り時職員と確認し、研修会など行なっているが定期的ではない。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練の実施、運営推進委員会を通じ地域の方々のご協力を頂いている		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し言葉掛けや対応に敬意はらうよう努めている		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思や希望などを傾聴しできる限り希望にそった支援が出来るように努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に希望にそえるよう支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の気持ちを大切にその人らしいおしゃれができるよう支援している		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F そよかせ)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別に食事形態を変えている。また、職員と共に個々にあった作業をし、出来る限り参加頂いている			
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスの良い食事を提供している。水分摂取も表を活用し個々の好みの物を用意し摂取の把握に努めている			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、毎週月曜日必要な方に診療、指導を受けている			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しその方に合った支援に努めている			
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、運動等に工夫し、便秘がちな方に関しては、医療機関に相談し助言を基に支援している。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は、ある程度決めているが、ゆっくり入浴を楽しんで頂けるよう個々にそった支援に努めている			
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な運動と日中の生活リズムを整え良眠できるように支援している			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理のもと、きちんと服用したか毎日最後まで確認するよう努めている			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴に配慮しながら、趣味、楽しみごと、気分転換等の支援に努めている			

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F そよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望にそうよう可能な限り外出の機会が持てるよう努めている		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、ホームでお金の管理をしています が、必要に応じて職員、家族と買い物に行きます		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、手紙のやり取りや電話も自由にできるよう努めています		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に、飾りつけを変えたり、入居者の作品を貼り、行事の写真をはる等居心地良く過ごせるよう工夫している		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間で気の合う同士がゲームをしたり、ベランダで気分転換する方等その方に合った居場所が提供されている		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望、慣れ親しんだものや思い出の品等を置き居心地良く過ごせるよう努めている		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのADLの把握をし自立した生活を送れるよう工夫している		



目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホーム とみおか

作成日：平成 23年 10月 31日

市町村受理日：平成 23年 11月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時の地域住民の方々との役割分担が明確になっていないのが現状であり、組織図も具体的なものが作られてはいない。	町内会の会長や近隣の方々に協力を得ながら、連絡体制、役割分担等について話し合いながら可能な限り、構築されるよう努力していく。	運営推進会議で、再度はなしを持ちかけながら話をすすめていく。	3か月
2		全介護職員が、救命救急訓練の講習を受講していない。	全職員が消防署主催の救命救急の講習の受講を終え、緊急時の対応に備え再確認していくよう心がける。	月に1度開催されている、消防署での救命救急の講習に、職員が交代で参加するように調整する。	3か月
3		火災時の避難訓練、対策などは日頃より行っているが、地震時に対する避難訓練の実施は行われていない。	備蓄管理体制を明確にして、異なる災害すべてに対しての訓練を行ない、災害時に対応していけるようにしていく。	地震マニュアルの作成、シュミレーションなどを行っていきながら、緊急時の対応に備える。	3か月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。